

平方・中野久木の寺社林・斜面林・石造物めぐりと  
物流センター大和DPL見学

講師 柳沢朝江氏 (利根運河の生態系を守る会)  
新保國弘氏

爽やかな日和の5月26日、江戸川台駅西口に集まった人数は14名。地味ではあるが、本年の研究誌にも直結する企画であり、関心の高いメンバーが参集した。

駅前の新緑が目にも鮮やかで、特に万葉集にも登場するハート形の桂の葉が美しい。徒歩10分程で平方観音へ着く。

入り口付近の石造物は2基あり、かなり古い。流山市内で最古(寛保元年・1741)、六十六部回国塔というもの。昔66国のうち1国に1か所の霊場に、法華経の写経を納めた宗教者の記念の石碑という。奥は共同墓地になっており、市内最古の石塔婆(弘安10年・1287)が狼家の墓地内に建っていた。

次に向かったのは平方福性寺。ここには流山市保存樹木22号の大イチョウと324号のムクロジがある。以前、住職に取材したところ



ムクロジを見上げて

ろでは、イチョウの樹齢は400年から500年とのことだった。雌雄異株で高さ約25m、幹回り5.3mあった。

一方、ムクロジは雌雄同株で高さ約27mほど、幹回り約3.5mである。本堂の手前左右に植えられ、寺の風格を上げるような見事なものであった。

隣接して香取神社がある。鳥居の横に8基の庚申塔が並んでいる。中国道教由来の庚申信仰に基づき建立された石塔である。江戸時代庶民が延命長寿などを祈願して、寛文6年(1666)から天保14年(1843)に建てたものであ

る。ここには保存樹木としてのイチョウ2本、新緑のケヤキ、スダジイがひっそり枝葉を広げていた。ここから新川耕地に向かって斜面を運河方向に下り始める。台地と耕地の境界に沿うように、斜面に自然林が形成されている。1998年のまちネット調査によると、当時の樹種数は65種だったとか。しかし、現在は足を踏み入れるすき間もないほど樹木が茂り放題の観た。当時の斜面林は江戸川堤防から見て延長4km強もの全景が望めたという写真の説明があった。

この斜面林が連なる台地と耕地の境界に沿って新川承水路が流れている。川幅は2m強、途中に土地改良記念碑が建っている。昭和18年西深井・平方・中野久木・北小屋の耕地を整理した組合が合体した記念に、当時の千葉県知事が完成記念に建立したものだ。この土地改良事業によって、農業生産は飛躍的増進をみた、と石碑に書かれていた。

次に新川調整池を横目にしながら、壮大な規模の倉庫群が次々と立ち並ぶ中の「大和ハウスDPL4号棟」を、職員の方の案内によ

り見学した。整備された保育所、コンビニや一般にも利用可能なレストランやカフェがあった。特に広々とした屋上からは富士山も望めるのだった。

2017年に物流センターとして地区決定して以後、この周辺は様々な物流施設が整備され、全体の変貌が著しい。35年ほど前、私も広々とした新川の田んぼへ冬鳥を訪ねたり、蛍を探したり、サッカー場へ子供を送って行ったものだった。だが現在の新川耕地は目を見張るばかりに様変わりしているのだ。

そこから斜面林に沿って初石方向へ戻ると、中野久木の愛宕神社がある。ここにケヤキの巨木があるのだが、斜面がキツくて測ることも触ることも難しい。寛文11年と彫られた聖観音立像もひっそりと佇んでおられた。

江戸川台駅に戻る途中の「散策の森」で解散となった。3時間ほどの散策で私の歩数計は1万5百歩ほどであったが、この周辺の歴史と自然、現代への変遷を知るいい機会となった。

(石川恵美子)